

グループ通信



発行／ふれディアグループ本部 編集部
〒351-0022 埼玉県朝霞市東弁財1-3-4
朝霞台駅前ビル8F

全国相談窓口 ☎ 0120-116-017



こんにちは、ふれディア通信編集部です。夏休みが終わり、朝の風景に登校中の子どもたちの姿が戻ってきましたね。夏休み中、お子さんやお孫さんの宿題を手伝った方もいらっしゃるのでは？小中学生の夏休みの課題の定番といえば、読書感想文などの作文がありますが、これが苦手だという方は多いようですね。「とにかく原稿用紙の空白を埋めたくて文字と格闘した」という苦い思い出のある方もいらっしゃるでしょう。その原稿用紙の歴史を遡ると、中国の宋の時代、木版印刷術が発明された時に行き着きます。小中学校で使われている400字詰め原稿用紙のまん中には、文字を書かない一行があって、魚の尾ビシのような模様が印刷されていますね。あの何も書かれない空白の一行を「版心」、模様を「魚尾」といいます。長方形の枠を設けた一枚の紙を、版心で二つ折りにして綴じる本の形式は宋の時代にできあがりしました。印刷の際に順番の違うページが紛れ込むのを防ぐため、版心に巻数やページ数が印刷され、版心を魚尾のまん中がヤマになるように折って作られています。版心や魚尾が現在の原稿用紙にもあるのはその名残だそうです。原稿用紙は1マスに1文字ずつ書きますが、このルールができたのは宋の次、明の時代です。木版印刷は彫士が一字ずつ文字を版木に彫っていくわけですが、一人で一画ずつ版木の向きを変えながら彫るのは非効率です。そこで、縦線と横線で担当する人を換える分業体制がとられるようになりました。となると、文字の縦の長さや横の長さがそろい、曲線が多くないほうが作業効率がいいですね。そこでできた書体が、私たちがよくお世話になっている明朝体です。明の時代に出された本は、文字と文字が等間隔で並んでいます。この書式が今も受け継がれて、原稿用紙のあの形式になっているのです。今はいろいろな形式の原稿用紙が販売されていますが、(株)コトバノミカタから出ている「読書感想文が、よく書ける原稿用紙。」シリーズは、小論文・読書感想文を書くコツが解る解説付きで、親子で一緒に取り組むのにも使いやすいそうですよ。今年いまいちな出来になってしまったという方は、ぜひ来年このような商品でリベンジしてみるのはいかがでしょうか。では、今月も元気に過ごしましょう。ふれディア通信編集部

幸福の前ふれ？ ラッキー♡ジンクス & アンラッキー△ジンクス

不幸の予兆？



今月のジンクス

「飲み物にまつわるジンクス」



緑茶をよく飲む日本では「**茶柱が立つと縁起がいい**」「**家族が幸せになれる**」というジンクスが有名ですね。この茶柱は茶葉の茎ですから、それが湯呑に入って立つというのは稀なことです。しかし、そんな奇跡を起こしたい方のために、なんと**茶柱が必ず立つように工夫されたお茶が販売**されています。おもてなしや商談など、ここぞというタイミングで使ったらその場が盛り上がりそうですね。同じお茶でも**紅茶が有名な**

イギリスでは、「紅茶の葉がカップに浮かんでいたらステキな出会いがある」というジンクスがあるそうです。また、**フランスでは「ワインの瓶の中の最後の1滴を飲むと早く結婚できる**

る」というジンクスがあり、**結婚式ではあえて独身者に注がれる**こともあるそうです。ところで、飲み物には**グラスやコップ**が欠かせませんが、**割れた時は不吉な**

感じがしませんか？しかし、「**割れたグラスは自分の身代わり**」ということで**災難を免れた**とも解釈できるそうですよ。



日本や世界には、さまざまなジンクス・迷信・言い伝えがあります。ただし、ジンクスはあくまでもジンクス！アンラッキーなジンクスが起きても科学的な根拠はありませんので、ご安心くださいね。

